

## 今週の感染症発生動向

**腸管出血性大腸菌感染症多発警報は解除  
RSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎、水痘が急増**

一類～五類全数報告感染症の発生状況(第45週)

- ・一類感染症----報告はありません
- ・二類感染症----**結核 1名**
- ・三類感染症----報告はありません
- ・四類感染症----報告はありません
- ・五類感染症----**梅毒 1名**(無症候梅毒)

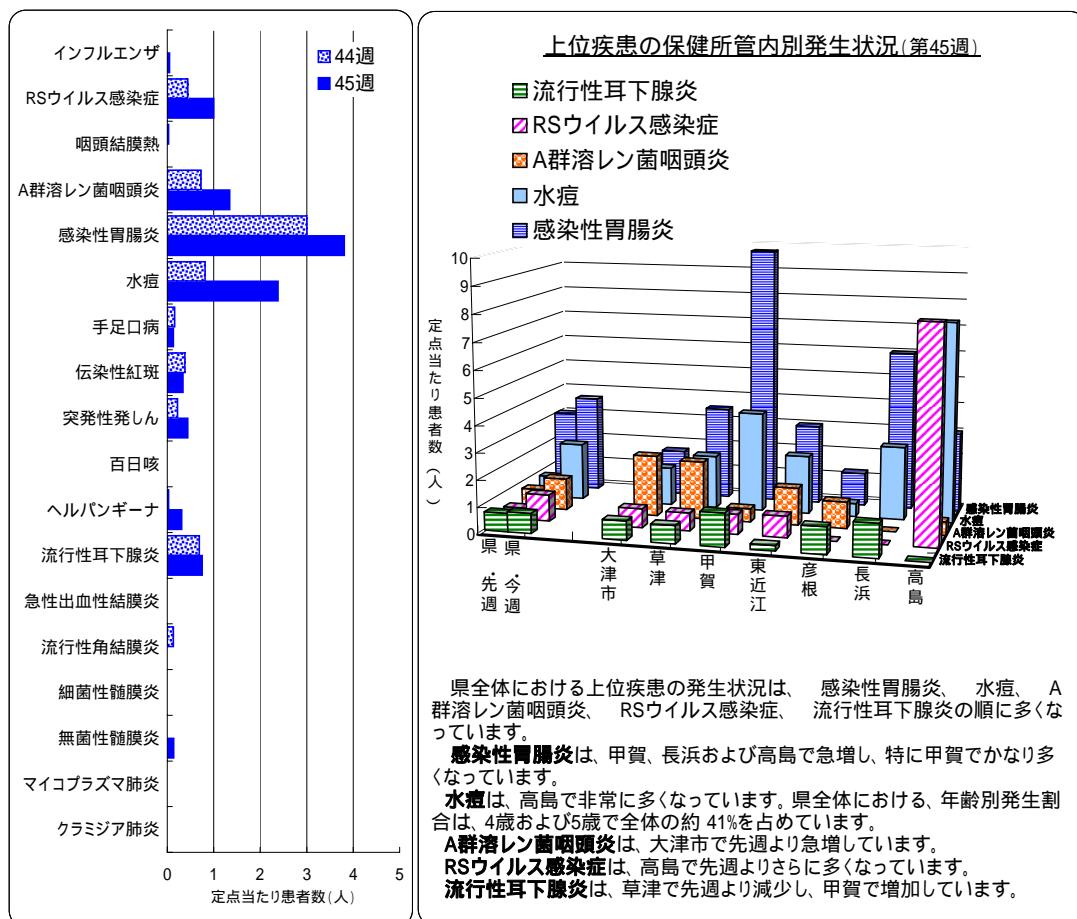
**腸管出血性大腸菌感染症の発生については、県は11月2日(火)に、本年度第10回目の警報を発令(発令期間:11月2日(火)~11月14日(日))していましたが、11月14日(日)に解除しました。**

今後も引き続き感染予防に対する注意(手洗いを十分にする。食肉の加熱時には、食品の中心温度を75分以上加熱する。食肉を生で食べないようにする。患者からの二次感染に気をつける等)が必要です。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)

下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(208名)の約1.6倍増となり、今週は340名となっています。今週、増加した疾患は、RSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘等で、特に水痘で多くなっています。また、減少した疾患は、咽頭結膜熱(ブルー熱)、伝染性紅斑(リンゴ病)等です(週別発生状況については、疾患別定点当たり患者数のグラフ参照)。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、水痘では、高島保健所管内で、警報開始基準値(定点当たり患者数7.00)を超えています。



## 1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき  
医師は保健所に届出ことになります。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	平成22年累積報告数		平成21年累積報告数 <sup>(*)1)</sup>		平成20年累積報告数	
		滋賀 (45週) (44週注)	全国 <sup>(*)2)</sup>	滋賀	全国 <sup>(*)2)</sup>	滋賀	全国 <sup>(*)2)</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	219	21,482	256	26,932	282	28,419
三類感染症	コレラ	0	10	1	16	0	45
	細菌性赤痢	2	209	0	180	3	320
	腸管出血性大腸菌感染症	64	3,856	27	3,886	53	4,322
	パラチフス	1	20	0	27	0	27
四類感染症	E型肝炎	0	53	1	56	0	43
	A型肝炎	3	321	0	115	3	170
	オウム病	1	9	0	21	0	9
	コクシジオイデス症	0	0	0	2	1	2
	デング熱	1	217	0	93	2	104
	マラリア	0	63	0	56	1	56
	レジオネラ症	9	625	8	712	10	893
五類感染症	アメーバ赤痢	4	713	10	783	10	872
	ウイルス性肝炎	3	173	3	220	5	241
	急性脳炎	0	196	8	526	1	190
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	139	2	141	2	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	99	2	105	1	113
	後天性免疫不全症候群	1	1,266	9	1,449	11	1,568
	ジアルジア症	1	69	0	73	1	75
	梅毒	8	521	3	692	5	839
	破傷風	0	88	3	113	5	123
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	96	0	116	0	80
	風しん	5	76	2	148	2	309
	麻しん	1	412	7	739	39	11,015
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ(H1N1) <sup>(*)3)</sup>	0	0	138	12,639	- <sup>(*)4)</sup>	- <sup>(*)4)</sup>

注：45週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報(SIDR)に掲載します。

\*1: 感染症発生動向調査年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年3月)。

\*2: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています(国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照)。

\*3: 感染症法の一部改正(平成21年7月24日施行)により届出の対象となった報告数です(届出期間：平成21年7月24日～8月24日)

\*4: 感染症法の一部改正以前のため、集計は行っていません。

## 2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一方所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数=定点当たり患者数×定点数)。

### (1) 疾病別・週別発生状況(平成22年第40～45週、10/4～11/14)

定点区分	定点数	疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
			40週	41週	42週	43週	44週	45週	週				
			10/4～	10/11～	10/18～	10/25～	11/1～	11/8～	41	42	43	44	45
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0	0.02	0.02	0.06	0	0.06					
小児科	32	RSウイルス感染症	0.38	0.28	0.34	0.25	0.44	1.00					
		咽頭結膜熱(プール熱)	0	0.03	0.09	0.03	0.03	0					
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28	0.50	0.38	0.44	0.72	1.34					
		感染性胃腸炎	3.50	3.31	3.31	3.13	3.00	3.81					
		水痘	0.44	1.06	0.53	1.28	0.81	2.38					
		手足口病	0.22	0	0.19	0.09	0.16	0.13					
		伝染性紅斑(リンゴ病)	0.28	0.19	0.22	0.25	0.38	0.34					
		突発性発しん	0.81	0.50	0.53	0.38	0.22	0.44					
		百日咳	0.06	0	0	0.06	0	0					
眼科	8	ヘルパンギーナ	0.69	0.44	0.16	0.34	0.03	0.31					
		流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.81	0.88	1.16	0.56	0.69	0.75					
基幹	7	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
		流行性角結膜炎	0.13	0	0.13	0.25	0.13	0					
		細菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0					
		無菌性髄膜炎	0.14	0	0.14	0	0	0.14					
		マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0.14	0	0	0					
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					

### 各疾患における6週間の発生状況

増加傾向……RSウイルス感染症、水痘  
減少傾向……特になし

## (2) 疾病別・保健所管内別発生状況(第45週、11/8~11/14)

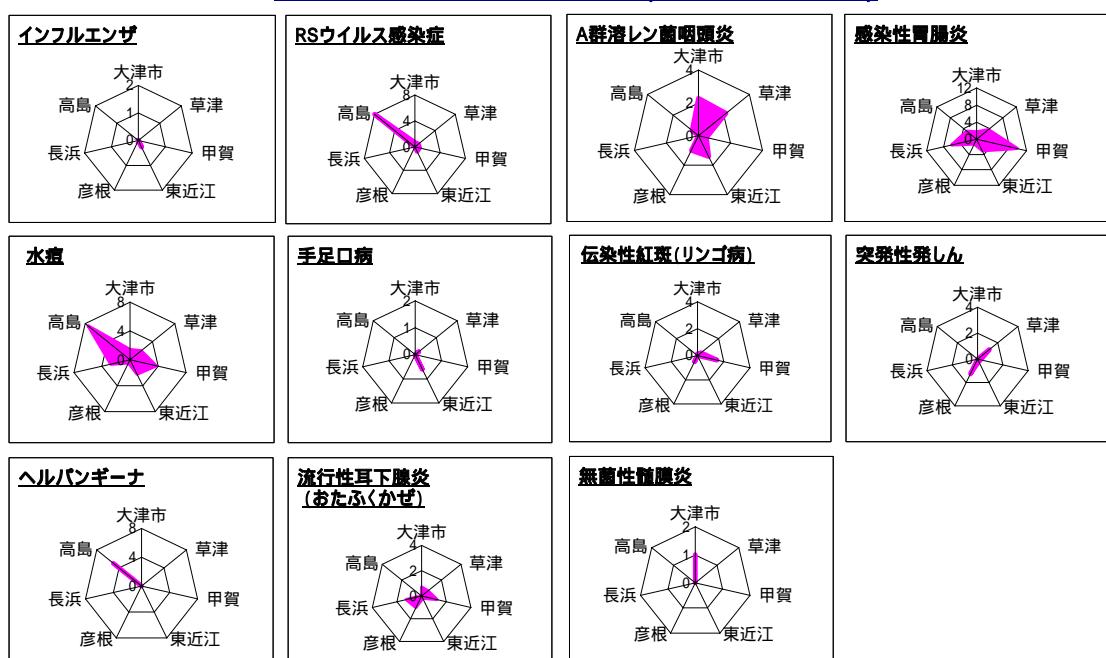
疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	
インフルエンザ	0.06	0	0	0	0.25	0	0.14	0
RSウイルス感染症	1.00	0.71	0.67	0.75	0.80	0	0	8.00
咽頭結膜熱(ブルー熱)	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.34	2.29	2.17	0.50	1.40	1.00	0	0.50
感染性胃腸炎	3.81	1.71	3.50	9.75	3.00	1.25	6.00	3.00
水痘	2.38	1.43	2.00	3.75	2.20	0.50	2.75	7.50
手足口病	0.13	0	0.17	0	0.60	0	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.34	0.14	0.33	1.50	0	0.50	0	0
突発性発しん	0.44	0	1.17	0.25	0.20	1.25	0	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.31	0	0	0	0	0	0	5.00
流行性耳下腺炎(あたふくかぜ)	0.75	0.71	0.67	1.25	0.20	1.00	1.25	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性結膜炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0

赤・太字は警報発生基準値を超えてます。

青緑・太字は注意報発生基準値を超えてます。

0 2 4 6  
定点当たり患者数

## 疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

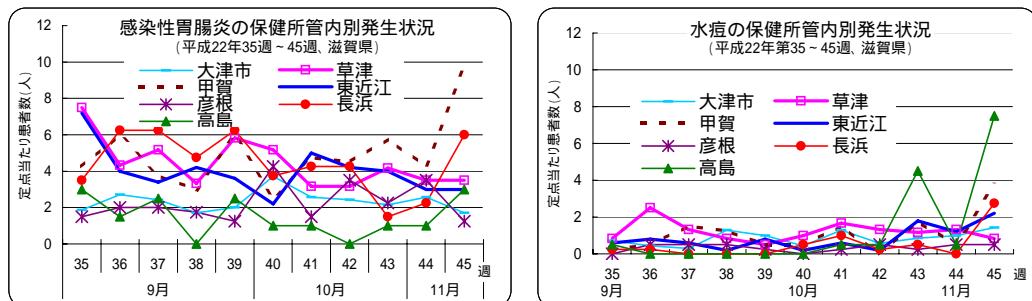


## (3) 今週の発生状況

- インフルエンザ-----先週より微増し、東近江および長浜から報告されています。
- 伝染性紅斑-----県全体では、先週より減少していますが、甲賀および彦根保健所管内では、先週より多くなっています。
- ヘルパンギーナ-----高島保健所管内で再び増加し、定点当たり患者数は5.00と、かなり多くなっています。

\* 感染性胃腸炎、水痘、A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎およびRSウイルス感染症の発生状況について  
は、上位疾患の保健所管内別発生状況のグラフ参照

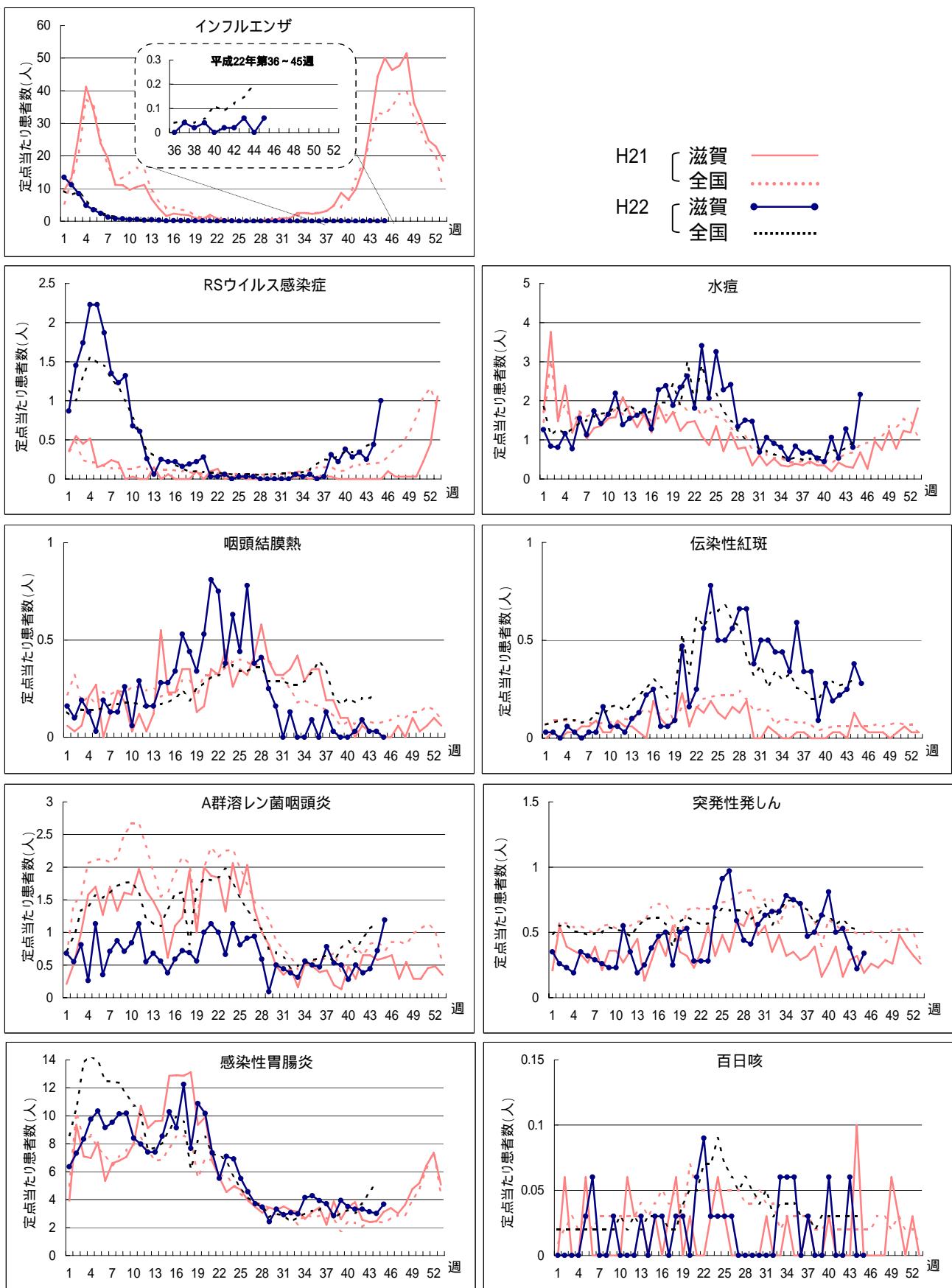
## 注目される疾患の週別・保健所管内別発生状況(第35~45週、8.30~11.14)



第35週以降、草津、甲賀、東近江および長浜保健所管内で、やや多く発生しています。特に45週には、甲賀および長浜保健所管内で急増しています。

高島保健所管内では、第43週に注意報発生基準値(定点当たり患者数 4.00)を、第45週に警報発生基準値(定点当たり患者数 7.00)を超えています。

## 疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～45週、H22.1.4～H22.11.14)



## 疾病別定点当たり患者数(平成22年第1~45週、H22.1.4~H22.11.14)

